

本時のねらい

- ・漢字には、同じ部分をもつものがあることを知り、部分に注意して漢字を読んだり書いたりすることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・比較する2つの漢字を拡大し、同じ部分をタッチペンでなぞる。
- ・シンキングツール【Yチャート】を活用し、比較するときに使用できるようにする。

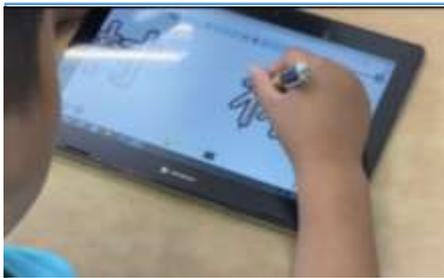
活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート
- ・タッチペン

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○問題文を読み、本時の活動を把握する。 ○2つの漢字を比較し、同じ部分を見つける。 【写真1】	・比較するときや書き込むときなど、自分が取り組みやすいように拡大縮小で調整する。
展開 (20分)	○確認問題をやる。 「学と字」「今と会」「刀と切」など、2つの漢字を比較し、同じ部分を見つける。 【写真2】	・教科書の内容をふまえたプリントをデータ化し、確認の問題として活用する。 ・データ化することで、児童だけでなく、教員も拡大縮小操作で提示し、わかりやすく説明することができる。
まとめ (15分)	○既習の漢字をなかま分けし、本時の学習の復習をする。 【写真3】	・ロイロノートのシンキングツール【Yチャート】を活用し、同じ部分がある漢字をなかま分けする。

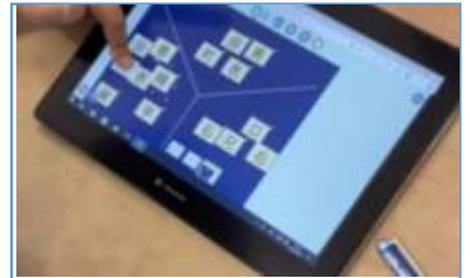
1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】2つの漢字を比較し、同じ部分を見つけてなぞっている場面



【写真2】確認問題に取り組み、同じ部分に注意して読んだり書いたりしている場面



【写真3】シンキングツール【Yチャート】を活用し、なかま分けをしている場面

児童生徒の反応や変容

- ・パソコンで漢字を使う学習をする際、同じ部分がないか比較したり、必要な場面で拡大縮小操作をしたりすることができるようになってきた。
- ・タッチペンで書き込む際、ペンの色や太さを調整することができ、自分が表したいと思ったことを表現できるようになってきた。
- ・シンキングツール【Yチャート】でなかま分けを経験したことで、他教科や異なる単元でなかま分けをするときに、1つの比較方法として【Yチャート】を活用することができるようになってきた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・教科書→ワークシート→Yチャートの順で、それぞれデータ（カード）をつなげておくと、学習の流れがスムーズで、児童が学習しやすいようにできる。
- ・なかま分けをする際、シンキングツールを活用することで、今後様々な場面で活用できる。児童が自分でシンキングツールを選択できるようになることを見通し、活用した種類のシンキングツールの説明をしっかりと行っていく必要がある。